

れき 民

となん歴民だより vol.8

Morioka tonan folklore museum

平成 18 年 9 月 20 日 発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 TEL019-638-7228

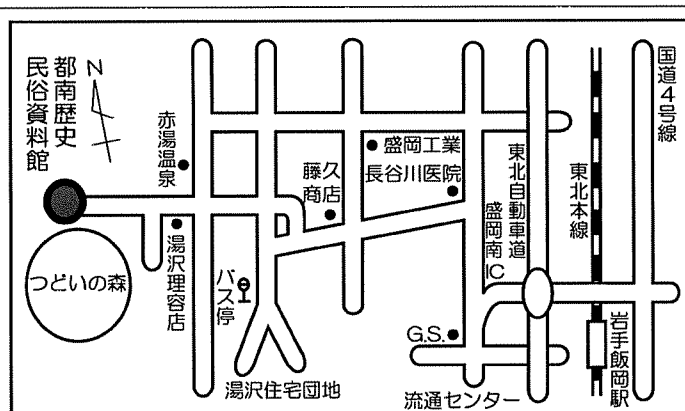


研修会「史跡・文化財めぐり」の見学風景

MAP ☆ACCESS

— もくじ —

- ・ 特別企画展開催中
- ・ 史跡・文化財めぐり報告
- ・ 体験学習報告
- ・ 指定文化財紹介⑧
- ・ これからの行事予定
- ・ 民具・農具を貸し出します
- ・ 資料は語る⑧
- ・ となんの昔ばなし⑧



○利用案内

開館時間 午前9時から
午後4時まで

入館料 無 料

休館日 月曜日

(休日に当たるときは、
直近の平日)

年末年始

—特別企画展「運ぶ道具」開催中—

運搬具は大きく分けて人力運搬、畜力運搬、自然力運搬、それに動力運搬に分類できます。これは運搬の主体による分け方ですが、畜力運搬は牛や馬に荷を乗せあるいは荷車を引かせる方法、自然力運搬は風や水といった自然の力を利用して運搬する方法、動力運搬は自動車や列車のように動力を使って運ぶ方法、そして人が体を使って運ぶ人力運搬です。人の体で運ぶ人力運搬は、さらに数種類に分類できます。すなわち、①頭上運搬、②肩担い運搬、③背負い運搬、④腰さげ運搬、⑤手さげ・抱え運搬、などです。



①：頭上運搬



②：肩担い運搬



③：背負い運搬



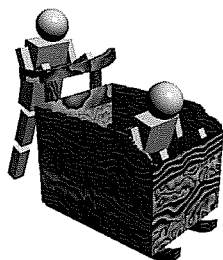
④：腰さげ運搬



⑤：手さげ・抱え運搬

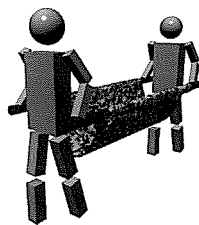
今回の特別企画展では運搬具を、かつぐ道具・せおう道具・もつ(さげる)道具・ひく(おす)道具・そしてそのほかの運搬具に分類し、それに畜力運搬の際に使う荷鞍などの道具を併せて展示しました。道具の機能的な意味や、運搬具をとおして、そこに見え隠れする労働の苦勞や、当時の人々のくらしぶりを考えていただければと思います。

展示紹介



箱ゾリ

冬の重要な運搬具であり、乳母車同様、子供を乗せたり野菜を積んで運んでいました。



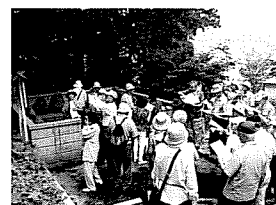
手モッコ

ワラ縄などを編んで作った網状の道具で、この手モッコは堆肥を運ぶために使われました。

史跡・文化財めぐり「歴史の街道散歩」(6月28日)報告

～鹿角街道～

今年度の第1回目の史跡・文化財めぐりは、盛岡市から鹿角市に至る鹿角街道で行われました。絶好の日和に恵まれ、参加しがいのある見学会となりました。さらに、今回は「よねしろ新報」の取材があり、その内容は6月29日に掲載されました。



恩徳寺戊辰の役戦死者の墓

体験学習「土人形の絵付け」(7月29日)報告

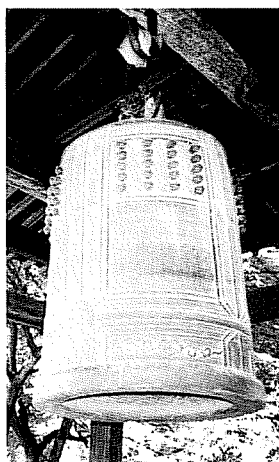
毎年、民俗資料館では体験学習を行っています。今年度は「土人形の絵付け」を行いました。参加者は、実物の土人形を観察し、思い思いのデザインの絵付けを苦勞しながら行いました。

〈土人形の絵付けの感想より〉

- 小学1年 男児 おもしろかったです。もう一度やりたいです。
- 小学2年 女児 体を黒じゃなくて茶色の方がいいと思いました。
- 小学2年 女児 かわいく作れて良かったです。



作品の一部



盛岡市所在指定文化財
紹介 ⑧
盛岡市指定文化財
じしょう
時鐘

昭和42年(1967)
6月24日指定
盛岡市

盛岡城下の時鐘は、江戸時代2か所にありました。1つは、城下外郭東部にあたる河南地区の十三日町(現在の中央通2丁目付近)、もう1つは、北西部にあたる河北地区の三戸町(現在の中央通3丁目付近)です。現在盛岡市有形文化財として指定されているのは、「日影門外時鐘」と称した三戸町の時鐘にあたります。

この時鐘は、4代盛岡藩主南部重信の子、行信の発願で延宝7年(1679)11月に設置されました。

鐘銘は、聖寿禅寺大道和尚の作で、鋳物師小泉五郎八が鋳造したものと伝えられています。鐘の大きさは、竜頭まで6尺7寸(2.03m)、惣廻り1丈2斤5寸(3.79m)、指し渡し4尺(1.21m)、輪口の厚さ5寸(0.15m)、重量959貫100匁(3,597kg)です。

明治維新後に、盛岡城跡の内堀、鶴ヶ池わき下曲輪の土塁上の現在地に移転されました。その後、昭和30年(1955)頃まで盛岡の人々に時刻を知らせ、生活のしるべとして親しまれていました。現在は、「時の記念日」と、元旦の除夜の鐘として年2回、関係者や市民の方々により鐘の音が復活しています。

引用資料/

ウェブもりおか 指定文化財 時鐘

行事予定

史跡・文化財めぐり

「歴史の街道散歩」(9月29日)

～稲荷街道～

今年度の第2回目の史跡・文化財めぐりは、稲荷街道を巡ります。稲荷街道は盛岡藩13代藩主南部利済が天保5年(1834)に志和稲荷神社参詣のために日光街道を横して整備した街道です。道筋は川久保一里塚を起点とし、現在の矢中町赤林～広宮沢～紫波町上松本を経由して志和稲荷神社に至る約16Kmの行程です。

この史跡・文化財めぐりの報告は次号で行う予定です。

昔の暮らしを見つめてみよう

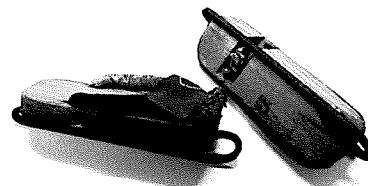
—学校や地域活動団体などへ—

農具・民具を貸出します!

当資料館の、数多くの民俗資料を学校や子ども会、地域活動などの場に広く役立てていただくために、所蔵資料の一部を貸出します。

長い歳月のあいだ使い込まれてきた資料一つ一つにはその家々の暮らしぶりや手づくりの道具に対する使い手の愛着が見え、手にとってはじめて知ることがとてもたくさんあるものです。

資料の借受を希望する場合は、当館にご連絡下さい。



資料が身近になると

いろいろなことがみえてくる

① 対象

盛岡市内の小学校・中学校、地区子ども会、町内会、老人クラブ、その他教育福祉施設等で郷土の資料を取り入れた学習や活動を実施しようとする団体等

② 貸出する資料

例) 米づくりなどの農耕具
炊事などの生活用具、
糸車などの生産用具など
衣類・履物類

貸出し資料リストがありますので、本館にお問い合わせ下さい。

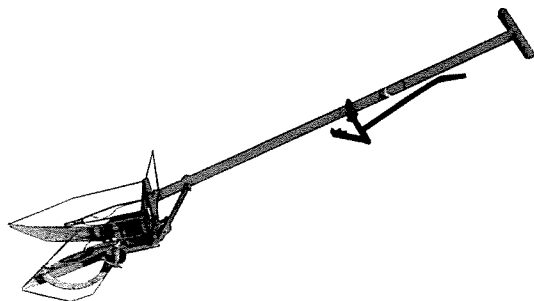
③ 貸出しの条件

貸出しにかかるきまり(貸出し期限・運搬方法・取扱い方法など)の遵守。

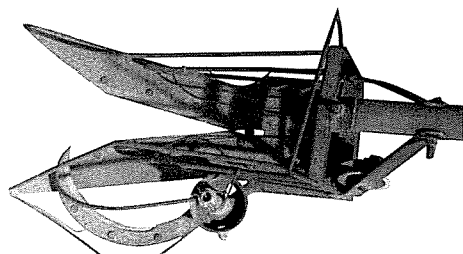
④ 申し込み方法

資料館へ直接お問い合わせください。





人力刈取機



人力刈取機のしくみ

稲刈りには古くから鎌が使われてきましたが、手刈作業は腰を曲げた姿勢で行う重労働であり、それが農民の健康を損なう原因にもなることが指摘されるようになりました。

この人力刈取機は、前に押すことによって、ハサミ状の2枚の刃が稲株を根元から切断し、腰を曲げないで刈り取ることができます。昭和30年代後期ごろまで使用されました。

引用資料／ 田原虎次 「稲作における農機具の変遷」 農林水産技術会議事務局 1990

となんの昔ばなし⑧

『舟っこ流し(ふねっこながし)』

盆の十六日の宵よい、明治橋附近で行われる「舟っこ流し」は盛岡の名物になっています。この「舟っこ流し」の由来は津志田が発祥の地なのです。

文化年間に津志田が遊郭(ゆうかく)として繁昌(はんじょう)していた頃、「松前屋」の遊女(ゆうじょ)「小時(ことき)」はこのほか美人であり、たいへんな売れっ子でした。ある年のお盆の十五日、小時は馴染(なじみ)の客に誘(さそ)われて盛岡城下の見物にでかけました。その日、遅くなったので、小時は川原町の舟宿に泊って朝早く舟橋を渡って津志田に帰ろうとしていました。ところが、明方(あけがた)から降りだした大雨に、北上川はみるみるうちに増水し、小時は帰るに帰れなくなりました。増水のため舟橋はとりはずされて渡れませんでした。

次の日も次の日も降り止まない大雨はついに盛岡城下を水浸しにしてしまい、人々は不安におののいていました。五日間も降り続いた雨がようやく止んで、水は少しずつ引いたものの、舟橋はいつか知られるかまったく分かりませんでした。「早く帰らなければならぬ。」と小時は心を痛めていましたが、とうとうた耐えきれず、小舟を雇(か)うと濁流(だくりゅう)を渡り津志田に帰ろうとしました。しかし、渦ま(うずま)く激流には横(よこ)をさばき慣れた船頭(ふね頭)もどうしようもなく、舟は川の中ほどで転覆(てんぷく)してしまいました。哀(あ)れにも小時は北上川の波にのまれてしまったのです。

その後、明治橋や北上川辺や津志田街道に夜な夜な亡霊(むしやう)がでて人々を悩ますとか、青白い鬼火(おにび)に(び)が舟橋から津志田の方へ飛んでいったとか噂(うわさ)がたち、これはきつと、生きて帰れなかった小時の亡霊(むしやう)にちがいないと、話は広まっていきました。

そのうちに、津志田の遊郭の人々やゆかりのあった人々で、哀れにも水中に没したままの小時の霊(たま)れい(れい)を慰(なぐさ)め(め)るために川施餓鬼(せがた)かわせがき・川での溺死者(おぼれし)などの霊(たま)れい(れい)を供養(くやう)することをしてあげようではないかということになりました。

翌(あした)の盆の十六日、美しく飾られた舟がたぐさんの読経(よきやう)の中を北上川にくりだされ、「舟っこ流し」の行事が行われました。至る所から何千人という見物人が押しかけ、河川はたぐさんの人であふったそうです。この舟っこ流しは、それから毎年のように行われました。これが、今もなお明治橋で行われている「舟っこ流し」の由来です。(終)

■ 出典『となんの民話』(都南歴史民俗資料館)